

## 令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立御殿場特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	170名

### 1. 使用状況

寄贈物品名	オミ・ビスタ（映像装置）
使用学年及び人数	(知)小学部2～6年生(46人)、中学部1年生(15人)、高等部1年生(15人) (肢)小学部(8人)、中学部(4人)、高等部(5人) ※(知)小1、中2、3、高2、3年生は今年度使用なし
使用頻度	週1回～年2回(学部、学年によって幅あり)
使用状況	<p>知的障害のクラス、肢体不自由のクラス両方での使用があり、机や床に投影する等、それぞれのクラスの目的に応じて使用されている。</p> <p>週1回～年2回と使用頻度の幅は広いが、傾向として小学部での使用が多く、学年によっては週1回ペースでの使用がある。機器の状態は、今年度も不具合等は全く無く活用できている。</p>
物品の使用による 変化や効果  ※1年目との違いを含めご記入ください。	<p>動くイラストを目で追い、主体的に手や足を伸ばして触れようとする姿があった。オミ・ビスタを使用することで、普段動きの少ない児童生徒が主体的に活動に取り組み体を動かすことができた。</p> <p>言葉で説明しにくい「季節」や、学校生活の中では訪れること(体験すること)の難しい「海」や「波」等を、映像や音で体感することができ、児童生徒と話題を共有しながら楽しむことができた。児童生徒の新たな興味を引き出すことにも繋がった。</p> <p>ゲーム性のあるもの、クイズ形式のもの、終わりの分かりやすいもの(踏むと潰れる等)を使用することで、集中力の持続の難しい児童生徒が、意欲を持って夢中で最後まで取り組むことができた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>鍵のかかる部屋に保管をし、貸出簿を使って貸出している。今年度は、生活単元学習、自立活動、特別活動で使用することが多く、授業で扱う内容や児童生徒の興味関心に応じてアプリケーションを選んでいる。</p> <p>効果的に活用するためには、暗幕のある部屋での活用が有効であるため、オミ・ビスタ自体の申請に加えて活用場所の確保が必要である。取り外し可能な暗幕の保管場所を周知し、活用機会を広げていきたい。</p>
その他 希望や所感など	<p>アプリケーションの種類がたくさんあり、使用したいものを探すときに時間を要することがある。また、まだ知らない種類もたくさんあるので、全体を概観できる機会(もの)があると活用の幅が広がると考える。</p>

## 2. 活用の様子



中学部1年生が花火のアプリケーションを使用したときの様子です。広い教室で長時間の活動に取り組むことができました。交替で進めましたが、普段待つことが難しい子どもたちが、友達が笑顔で楽しんでいる様子を見たり、自分の番に期待感をもったりしながら、自分の順番が来るのを座って待つことができました。オミ・ビスタを活用し子どもたちの「やりたい」「楽しい」気持ちを引き出すことで、順番を待つことやルールを守る学習にもつなげることができました。